

第3回学生基金による

エッセイコンテスト

エッセイのテーマ 「世界と日本—女性の人権とは—」

副賞：約9日間のボストン派遣（2016年2月～3月頃）

優勝者は High School Youth Ambassador として、^{こすもすさい}秋桜祭にて表彰。

また、High School Youth Ambassador としての活動ができる

約9日間のボストンプログラムに参加できます。

■募集要項

募集対象：全国的女子高校生（1年～3年生）

エッセイの様式：400字詰原稿用紙で5～10枚程度（PC入力の場合も原稿用紙設定）

応募方法：「学校名、学年、連絡先（電話番号及びメールアドレス）、氏名」を明記のうえ、郵送またはメールでお送りください。

住 所 〒154-8571 東京都世田谷区太子堂 1-7-57

昭和女子大学地域連携センター エッセイコンテスト係

E-mail swu.essay@swu.ac.jp

問合せ先：swu.essay@swu.ac.jp

締切：9月30日（水）必着

結果発表：大学ホームページにて10月末を予定

審査委員：坂東眞理子昭和女子大学学長、国際交流センター長 西川寿美(日本語日本文学科教授)

地域連携センター長/プロジェクト顧問 志摩園子(現代教養学科教授)、アドバイザー 前田純弘
(ビジネスデザイン学科特命教授)、地域連携プロジェクト 女子高校生に世界を見てもらおう！
—ファンドレイジングへの挑戦—(学生基金)1,2,3年生

協 賛：昭和女子大学国際交流センター、昭和ボストン校、昭和女子大学光葉同窓会、

株式会社カリヨン、ショッププレリウド、産直めぐり(山形県鶴岡市)、写真家 池田博子

エッセイコンテスト開催の背景

私たちは昭和女子大学の学生有志です。当大学でボストン留学を経験した学生は、世界を見て日本を考える機会を得ました。そこで、私たちは学生基金を立ち上げ、今後の社会を担う高校生に、ぜひとも世界を見て視野を広げた上で日本の将来を考えてもらう機会を作ろうと思い、エッセイコンテストを企画しました。現在、基金作りに向けて、「産直めぐり」（山形県鶴岡市）の協力を得てさくらんぼ（佐藤錦）の販売を計画しています。この基金のために、ビジネスデザイン学科を中心に、現代教養学科の学生も参加し、活動を続けています。

昨年度エッセイコンテスト優勝者の感想

わたしはエッセイコンテストの副賞「ボストン派遣」で、初めて一人で海外に行きました。九日間のボストンプログラムでは、ハーバード大学や MIT、日本領事館を訪ねたり、現地の高校に 1 日体験として一緒に授業を受けたりと、普段はできない貴重な体験をすることができました。ハーバード大学や MIT では、世界トップの大学で学ぶ人を見て、勉学に対するモチベーションを上げるきっかけになりました。このボストン派遣をきっかけに、アメリカの文化や歴史について知ることによって、それまでより興味を持ちました。今回の経験を生かすためにも、今後も別の国々を訪れ、その国の文化や歴史への理解を深めたいと思います。

また、昭和ボストンのスタッフや学生さんには良くしていただき、安心してボストンで有意義な時間を過ごせることができました。



(昭和女子大学ボストン校)

プロジェクトメンバーからメッセージ

私たちは、エッセイコンテスト優勝者の方に昭和女子大学ボストン校で研修や交流を体験していただくため、ファンド・レイジングに挑戦しています。エッセイコンテスト開催に向けての準備やファンド・レイジング方法を学生で話し合い、1年間の活動計画を立てて活動しています。昭和女子大学学園祭「秋桜祭」では、「産直めぐり」、ショッププレリユードの協力を得て果物や物品販売を行う予定です。また、クラウドファンディングサイトを利用し、多くの方に私たちのプロジェクトを知ってもらい、賛同を得て基金を募ろうと計画しています。

このプロジェクトで高校生に短期留学の機会を提供し、将来の可能性を広げられるお手伝いをすることで、私たちも社会貢献のあり方について考えたいと思います。

(代表：ビジネスデザイン学科 3 年外池恭子)



(プロジェクトミーティング風景)